

戦略がなければ、永遠に結果は出ない

本書は、「大人（社会人）のための勉強」がテーマです。

では、学生のための勉強と社会人のための勉強の一番の違いはなんでしょう。

それは、勉強に費やすことのできる時間ではないでしょうか。

限られた時間での勉強に求められるのは、「一生懸命マジメにやる」ことではありません。

もちろん姿勢としては大事なのですが、何よりも必要なのは、目標を持ち、戦略を立て、どう効率的に時間を使うかです。

つまり、ムダなことをしないように合理的に取り組むことです。

たとえば、世界には教材を販売して儲ける通信教育の会社がごまんとあります。彼らは、教材を売るのが仕事です。

ですから、テレビコマercialや電車内の広告、新聞の折り込みチラシなどで教材を宣伝し、たくさんの人に受講してもらおうとします。

そのときに、「何かしておかなければ」という漠然とした不安や危機感、「これさえやっておけば安泰かもしれない」という期待、「他の人間とは違う自分になりたい」という自己顕示欲、そういうものだけに突き動かされてしまうと、確実に彼らのいいお客さんになってしまいます。

甘い誘い文句にまんまとはまり、続きもしない教材に数万円を払う。

そのようにして、いつまで経っても結果の出ない、なぜやっているかわからないような勉強を続けたりしてしまうのです。

司法試験を突破しても、食えない弁護士がいる

私は現在、弁護士という仕事をしています。弁護士というのは世間一般的に見れば、専門性が高く、従事する人も限られた特殊な仕事です。

「収入も多いし、将来は安泰だろう」と思われる人も多いと思います。

しかし、数年前から、弁護士資格を有しているにもかかわらず就職できない「弁護士ニート」と呼ばれる人が増えていることをご存知でしょうか。

数年かけて司法試験に合格したにもかかわらず就職できず、職にあぶれている人が年間数百人単位で出ているのです。

どんなに難しい試験にパスしたとしても、食べていけなければ意味がありません。もともと救いたいのは、司法試験に合格するために何年も同じ勉強を続け、やっと合格したにもかかわらず就職できずにフリーター生活をしなければならない人たちです。

司法制度改革による司法試験合格者の増加により、企業や法律事務所ではより優秀な人材を確保しようとしています。

当然、何度も試験に落ちているような人を採用するはずがありません。

現在、司法試験の勉強をしている人のなかには、弁護士が就職難であることを知っている人たちも多くいますが、司法試験合格を目標に何年も勉強を続けてきたので今更やめるわけにはいかないという人もいます。

悪いのは頭ではなく、やり方である

本書では、社会人が限られた時間の中で勉強をする上で「これはやってはいけない」という勉強に対するムダを各項目ごとに解説していきます。

大きく2つのパートに分け、前半が「心構え」MIND」、後半を「実際の行動

」ACTION」とし、全12章、108項目です。

前半では、「目標の立て方編」「戦略編」「時間管理編」「語学勉強編」「資格勉強編」「教養編」の6章。

後半では、「生活習慣編」「時間術編」「記憶編」「テキスト編」「ノート編」「試験編」の6章。

最初から通して読んでも、好きなところから読んで頂くのでも構いません。

私はこれまで、米国公認会計士、司法試験などいくつかの資格を取得してきましたが、思うのは、勉強ができないのは「頭が悪いから」ではないということです。

勉強しているのに結果が出ないのは、頭が悪いのではなく、やり方が完全に間違っているのです。

ではどこが間違っているのか？ 本書のチェックリストがその手立てとなれば幸いです。どうぞ、最後までお付き合いいただけると幸いです。